

目次

序文

客観事実の犯罪論の問題

森川 恭剛 (1)

行為者の表象(予見・認識)と責任能力及び有責性

伊東 研祐 (21)

——刑法における主観的ないし行為者的なもの4

一定の病気、症状による交通事故と刑事責任

金澤 真理 (34)

日本における過失犯論の展開

松宮 孝明 (54)

故意概念と違法性の意識

宗岡 嗣郎 (71)

刑法の場所的適用範囲について

本田 稔 (94)

——二〇一五年改正自衛隊法の「国外犯処罰規定」の考察

近時の立法動向と罪刑法定主義の再認識

福永 俊輔 (115)

看護行為の高度化と刑事司法

鈴木 博康 (135)

——北九州爪ヶア事件をもとに

入札談合等関与行為防止法の処罰規定の適用について	雨宮敬博	(158)
暴力行為等処罰法の来歴	宮本弘典	(187)
——治安刑法の論理と心理		
クラブの営業に対する規制の背後にあるもの	村田和宏	(215)
戦後占領政策における「所持」概念の確立	森尾 亮	(245)
——銃砲刀剣類の規制を中心に		
「可視化」の夜と霧	五十嵐二葉	(267)
治安刑法をめぐる動向と捜査権の拡大について	春日 勉	(296)
接見内容の秘密性の保障	葛野 尋之	(320)
——事後的・間接的探知からの保護		
誤捜査の国賠法上の違法性の判断基準	田淵 浩二	(344)
縮小認定と刑事補償	渕野 貴生	(374)
評議の秘密に対するアクセス可能性	松本 英俊	(396)
——公正な裁判を受ける権利からのアプローチ		
「合理的疑いを超える証明」に関する一考察	吉 弘 光 男	(420)

控訴審における事実誤認審査	古賀康紀	(443)
冤罪と雪冤	八尋光秀	(473)
少年法における価値	岡田行雄	(496)
「新たな秩序(治安)」の基層とその射程	佐々木光明	(521)
——「安心・安全」政策と少年法改正の論理から		
少年矯正法の系譜と新法の課題	武内謙治	(553)
刑事法におけるビッグデータの活用	大場史朗	(577)
一九九〇年代におけるフランスの薬物政策の転換	大藪志保子	(603)
——抑止からハーム・リダクションへ		
刑の一部猶予制度の運用のあり方について	森久智江	(627)
——犯罪をした人の社会復帰の観点から		
アムステルダム の奇跡の『神話』	石塚伸一	(655)
——自由刑における「懲治(しつけ)と労働」		
国際刑事学協会(IKV)ロシア・グループの実像	上田 寛	(685)
一九〇八年タイ刑法の成立について	平井佐和子	(710)

刑法と報復の論理	大久保 哲	(727)
内田博文刑事法学についての一試論	岡本 洋一	(746)
人種差別表現と法の下の平等	金 尚均	(767)
ヘイトスピーチ刑事規制法の保護法益	楠 本 孝	(786)
ヘイトスピーチ規制における運用上の諸問題	櫻 庭 総	(812)
ヘイト・スピーチ法研究の探訪	前 田 朗	(837)
パターナリズムに粉飾された社会防衛と医療福祉動員体制の問題点	池 原 毅 和	(863)
刑事法における障害者差別 ——てんかんの事例を契機に——	内 山 真 由 美	(885)
ハンセン病隔離政策と医の倫理	徳 田 靖 之	(910)

内田博文先生 略歴・主要著作目録
執筆者紹介